

公立大学法人奈良県立大学中期目標

奈 良 県

目次

分野		頁
前文		2
中期目標の期間		2
I 教育		
〈教育内容の充実〉	対話型少人数教育（学習コモンズシステム）の導入・充実	3
	フィールドワークを通じた実践型教育の導入・充実	4
	リベラルアーツ教育の充実	5
	高度な語学教育の提供	6
〈学生への支援〉	意欲ある学生の確保	7
	教育内容の評価（教員の評価とカリキュラムの評価）	8
	学生のキャリアサポートの充実	9
	学生生活へのサポート	10
〈教育を支える施設整備〉	学生の学習意欲及び教育効果の向上を図るキャンパス整備	11
	図書館機能の充実・強化	12
II 研究		
	研究の適切な成果評価	13
	課題解決に寄与する研究活動の推進	14
	奈良とユーラシアに関する研究活動の推進	15
III 地域貢献		
	幅広い知識と実践力を持つ優れた人材の育成	16
	奈良の魅力を全国に発信できる人材の育成	17
	地域の学校（大学・高等学校）間の連携による地域貢献	18
	県民に対する生涯学習の機会の提供	19
	社会人の学び直しの機会の提供	20
	地域創造データベースの構築、活用及び提供	21
	大学・地域の協働による課題解決型プロジェクトの推進	22
	研究成果等の地域への還元	23
	学生の地域貢献	24
	奈良県のニーズに対応した地域貢献活動	25
	地域交流拠点の活用（協働サロン等）	26
	地域に開かれたキャンパスづくり（施設の開放）	27
IV 国際交流		
	学生の国際交流	28
	教員の国際交流	29
	国際交流組織体制の整備	30
V 法人運営		
〈組織運営と人事管理の改革〉	ガバナンス体制の充実強化	31
	同窓会・後援会との連携	32
	コンプライアンスの確保	33
	危機管理体制の整備	34
〈健全な財務の構築と維持〉	収入の確保	35
	経費の節減	36
	業務の効率化	37
〈法人の自己点検・評価及び 情報公開の推進〉	法人の自己点検・評価	38
	法人情報の公開の推進	39
	情報発信体制の強化	40

前 文

奈良県立大学（以下、県立大学という。）は、「地域から学び、地域に貢献する」ことをモットーに少人数制とフィールドワークに重点をおいて、地域の未来創りに貢献する人材を輩出しています。

平成26年度からは新学科「地域創造学科」を開設するとともに「コモンズ制」を導入しました。

コモンズとは、テーマごとに学生と教員が集う学びの共同体であり、「このテーマを徹底的に追求したい」という学生の願いに応えます。これは他の大学では体験することのできない対話型少人数教育の究極の姿であり新しい教育システムです。

このような県立大学の改革を進めるうえで、大学として機動的かつ独立した経営基盤のもと運営していけるよう「公立大学法人奈良県立大学」（以下、法人という。）を設立することとしました。

中期目標は、県が法人に対して求めていく事項を、「教育」、「研究」、「地域貢献」、「国際交流」の4つの柱を中心に、具体的な成果目標として立てたものです。この中期目標に基づき法人が立てる具体的な中期計画を、PDCAサイクルにより検証していきます。

- ・「教育」では、コモンズ制の着実な実施、生活・就職面でのきめ細やかな支援など、小規模大学ならではのユニークな取組の実践
- ・「研究」では、教員のさらなる質の向上、奈良の歴史をふまえ、奈良らしい研究を行う地域の知の創造拠点としての大学形成
- ・「地域貢献」では、教員、学生が、住民と共に地域課題に取り組む地域支援や多様な年齢層に学んでいただくための講座開催
- ・「国際交流」では、海外大学との交換留学制度を設けるとともに、東アジア・サマースクールの実施など、行くだけでなく、来ていただき交流するような学生・教員の国際交流の促進

平成27年度から平成32年度までの6年間は、全ての教員と職員が一丸となって、この中期目標の達成に向けて取り組み、県立大学が大いに飛躍されることを期待します。

中期目標の期間

平成27年4月1日～平成33年3月31日（6年間）

中期目標

大項目

I. 教育

中項目

① 教育内容の充実

小項目

- 1 対話型少人数教育（学習コモンズシステム）の導入・充実

【期待する成果】

自主的に学び成長する精神を身につけた地域に貢献できるすぐれた人材の育成

現 状

学生の成長度 H26年度調査（入学時より能力が増えた4年生の割合）

分析力や問題解決能力 82.2%

コミュニケーションの能力 82.2%

プレゼンテーションの能力 74.0%

大学に求める取組項目

- ・ 学生と教員による学びの共同体として4つの領域（観光創造・都市文化・コミュニティデザイン・地域経済）の学習コモンズを設け、ゼミを重視したカリキュラムを段階的に導入し、平成29年度に完成
- ・ 教員によるコモンズ連絡会議での検討による情報交換及び教育手法への活用

中期目標

大項目

I. 教育

中項目

① 教育内容の充実

小項目

2 フィールドワークを通じた実践型教育の導入・充実

【期待する成果】

実践的な課題発見・解決能力を身につけた人材の育成

現 状

実習参加学生数

	H23年度	H24年度	H25年度
学生数	82人	90人	169人

大学に求める取組項目

- ・ 地域交流センターの機能強化（市町村との連携協定の締結）
- ・ 各コモンズ教員と地域交流センターによるフィールドワーク先の開拓
- ・ 平成26年度入学生から必修化したフィールドワークを毎年着実に実施

中期目標

大項目

I. 教育

中項目

① 教育内容の充実

小項目

3 リベラルアーツ教育の充実

【期待する成果】

社会人として必要不可欠な幅広い教養、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけた人材の育成

現 状

リベラルアーツ科目数 H26年度 19科目

大学に求める取組項目

- ・ リベラルアーツ教育に係る科目数の増加（古典教育、社会人として必要な政治・経済などの基本的知識、理系科目など）
- ・ 学外の著名な有識者・実務者等を外部講師として招聘し、学生の想像力・モチベーションを高める
- ・ 学生による授業評価等によるリベラルアーツ教育の効果の把握及び検証

中期目標

大項目

I. 教育

中項目

① 教育内容の充実

小項目

4 高度な語学教育の提供

【期待する成果】

海外留学や語学力を活用した就職など国際社会で活躍できる人材の育成

現 状

- ・ TOEIC 600点以上の学生の割合 H26年度 3%
- ・ TOEFL 受験者なし

大学に求める取組項目

- ・ 能力別英語クラスの導入と海外留学希望者向け特別英語学習プログラムの導入
- ・ 英語でのコミュニケーション能力を涵養するための発声や話し方を含めた実践的英語教育の実施
- ・ TOEFL 受験に対する支援

中期目標

大項目

I. 教育

中項目

② 学生への支援

小項目

5 意欲ある学生の確保

【期待する成果】

大学が求める資質を持ち、学ぶ意欲の高い学生を確保することによる学びの質の向上

現 状

	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
高校への説明件数	84件	79件	59件	実施中
入学志願倍率	<u>8.1倍</u>	<u>7.0倍</u>	<u>8.2倍</u>	<u>8.6倍</u>

大学に求める取組項目

- ・ 効率的、効果的な学生募集の方法確立
- ・ 入試制度の継続的な改善検討（5教科受験入試の導入検討など）
- ・ 入試広報の充実（卒業生との連携による県内外へ向けた大学のPRの強化など）
- ・ 県内高校生の受験者を増やすための効果的な取り組み
- ・ 優秀な成績を修めた学生に対する給付型奨学金制度の構築

中期目標

大項目

I. 教育

中項目

② 学生への支援

小項目

【期待する成果】

学生の授業に対する満足度の向上、教育内容のレベルアップ

現 状

教育内容に不満な学生の割合（学生による教育評価）

H26年度 19.8%

大学に求める取組項目

- ・ 学生の授業評価を活用した、授業の質の向上
- ・ コモンズ連絡会議を開催し、教育内容の充実を継続的に検討
- ・ 学生の履修状況、授業評価を考慮したカリキュラムの構築
- ・ FD（Faculty Development）研修会の実施、任期制適用教員の評価制度の実施による教育力の向上

FD（Faculty Development）：教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称。その意味するところは極めて広範にわたるが、具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催などを挙げる事ができる。（文部科学省ホームページより）

中期目標

大項目

I. 教育

中項目

② 学生への支援

小項目

7 学生のキャリアサポートの充実

【期待する成果】

高い就職率の維持、卒業後も含めた就職支援体制の確立

現 状

	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
就職率	89.6%	96.1%	98.6%	100.0%
企業訪問件数	実績なし	17件	40件	実施中

大学に求める取組項目

- ・初学年次からのキャリア教育の充実
- ・就活生に対する細やかなサポートの実施
- ・担当教員とキャリアサポート室が一体となって就職サポートを実施
- ・担当教員による学生の就職活動状況の逐次把握
- ・就職サポートに関する学生の要望の把握
- ・アンケートによる卒業生及び就職先への離職率等の追跡調査の実施
- ・リカレント教育中心の相談員の配備
- ・卒業生の就職先との連携
- ・ハローワーク、ジョブカフェなど他の就職支援団体との連携や県内企業に県立大学学生をPR
- ・就職セミナーの実施、就職相談、就職情報の提供など学生の就職支援を継続的に実施
- ・就職先の質の検証（若者の「使い捨て」が疑われる企業等の排除）

中期目標

大項目

I. 教育

中項目

② 学生への支援

小項目

8 学生生活へのサポート

【期待する成果】

学生生活へのサポートを充実し、学生の利便性を向上させるとともに留年者及び中退者の減少を目指す

現 状

	H23年度	H24年度	H25年度
中退率	0.3%	0.6%	0.9%
留年率	2.9%	3.1%	2.9%

大学に求める取組項目

- ・メンタルヘルス相談など、学生相談体制の充実
- ・学務システムを導入し、学生へのきめ細やかなサービス提供を充実
- ・学生と教職員の交流の場やアンケートを実施することにより、学生の意見を積極的に聴取
- ・学生共用スペースの確保

中期目標

大項目

I. 教育

中項目

③ 教育を支える施設整備

小項目

【期待する成果】

教員と学生が共に学べるキャンパスの整備

現 状

H26年度

学習コモンズシステムに対応した教室等が未整備

大学に求める取組項目

- ・ 対話型少人数教育（学習コモンズシステム）に対応した教室の整備
- ・ ラーニング・コモンズの整備

ラーニング・コモンズ・・・複数の学生が集まって、電子情報も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」を提供するもの。その際、コンピュータ設備や印刷物を提供するだけでなく、それらを使った学生の自学自習を支援する図書館職員によるサービスも提供する。（文部科学省ホームページより）

中期目標

大項目

I. 教育

中項目

③ 教育を支える施設整備

小項目

10 図書館機能の充実・強化

【期待する成果】

高等教育機関及び地域の知の創造拠点として、地域創造学研究に資する蔵書を備え、地域住民に開かれたメディアセンターを整備

現 状

	H23年度	H24年度	H25年度
蔵書数	92,550冊	96,670冊	101,724冊
利用人数	15,058人	16,449人	15,070人
貸出冊数	5,101冊	5,395冊	5,660冊

大学に求める取組項目

- ・ 地域創造学関連蔵書の充実
- ・ 地域創造データベースの構築に対応できる環境の整備
- ・ メディアセンターのコンテンツの充実
- ・ ラーニング・コモンズの整備
- ・ 図書貸出冊数の増

中期目標

大項目

Ⅱ. 研究

小項目

1 研究の適切な成果評価

【期待する成果】

社会のニーズに対応した研究活動を通じて、広く社会に貢献する

現 状

科学研究費補助金の採択件数

H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
5件	5件	8件	11件	14件	18件

大学に求める取組項目

- ・ 社会のニーズに対応した研究活動（理論的研究を含む）を行うため科学研究費補助金の積極的な確保に努める
- ・ 科学研究費補助金申請の支援体制を確立
- ・ 優秀な研究者を客員研究員として招聘
- ・ フェローシップの検討
- ・ 優れた外部研究者に対する表彰制度の創設の検討

中期目標

大項目

Ⅱ. 研究

小項目

2 課題解決に寄与する研究活動の推進

【期待する成果】

研究成果を社会に発表し、社会の問題解決に貢献する

現 状

学術論文相当、学会発表等件数

H25年度	
論文	27件
学会発表等	20件

大学に求める取組項目

- ・ 優秀な研究に対する支援体制の整備
- ・ 高度な研究成果を広く社会に情報発信
- ・ 問題解決に必要な研究所を大学内に設置

中期目標

大項目

Ⅱ. 研究

小項目

3 奈良とユーラシアに関する研究活動の推進

【期待する成果】

奈良とユーラシアに関する研究活動を推進するとともに、その研究成果を県民に還元する

現 状

平成27年度に大学内に（仮称）奈良県立大学ユーラシア研究センターを設置することを決定

大学に求める取組項目

- ・（仮称）奈良県立大学ユーラシア研究センターの設置
- ・研究成果を県民に還元する講演会、セミナー、シンポジウムの実施
- ・東アジアサマースクールの実施

中期目標

大項目

Ⅲ. 地域貢献

中項目

① 教育関連

小項目

1 幅広い知識と実践力を持つ優れた人材の育成

【期待する成果】

社会のニーズに応じた幅広い知識と実践力を持つ優れた人材の育成

現 状

学生の成長度 H26年度調査（入学時より能力が増えた4年生の割合）

分析力や問題解決能力 82.2%

コミュニケーションの能力 82.2%

プレゼンテーションの能力 74.0%

大学に求める取組項目

- ・ キャリア育成プログラムの開発・実施
- ・ リカレント教育中心の相談員の配備

中期目標

大項目

Ⅲ. 地域貢献

中項目

① 教育関連

小項目

2 奈良の魅力を全国に発信できる人材の育成

【期待する成果】

県内外で就職した学生が大学での学びを生かして、奈良の魅力を全国に発信する

現 状

奈良に関する教育科目に満足な学生の割合

満足	13.0%
まあ満足	78.0%
やや不満	5.6%
不満	0.6%
わからない	2.8%

大学に求める取組項目

- ・ 奈良の魅力を学生に伝える授業科目の実施
- ・ 奈良県内におけるフィールドワーク先の開拓
- ・ 卒業生に対する継続的な情報発信
- ・ 卒業後のネットワークの構築（ホームカミングデーの実施など）

中期目標

大項目

Ⅲ. 地域貢献

中項目

① 教育関連

小項目

3 地域の学校（大学・高等学校）間の連携による地域貢献

【期待する成果】

地域の学校間の連携を通じて、大学の使命である地域づくりへの貢献を実現する

現 状

高大連携事業による実施校数

H24年度	H25年度	H26年度
1校	2校	実施中

大学に求める取組項目

- ・ 高等学校との連携事業により、高校での模擬授業等を実施

中期目標

大項目

Ⅲ. 地域貢献

中項目

① 教育関連

小項目

4 県民に対する生涯学習の機会の提供

【期待する成果】

大学の資源を活用して、県民への生涯学習の機会を充実する

現 状

	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
県民(市民)講座 開催回数・受講者数	年1回 145人	年1回 68人	年1回 105人	実施中
出前講座開催回数・ 受講者数	—	年1回 50人	年5回 226人	実施中
シニアカレッジ受講者数	—	—	—	492人
東アジアサマースクール 一般聴講者数	—	—	—	556人

大学に求める取組項目

- ・ 県民（市民）講座の開催回数の増加
- ・ 県民のニーズに応じた講座開催と開催情報の発信の強化
- ・ 県民向けに協働プロジェクトの成果等を発表するセミナーの開催
- ・ 教員による県民の希望に応じた出前講義の実施
- ・ 大学の講義科目への科目等履修生の積極的受入
- ・ 奈良県立大学シニアカレッジの充実
- ・ 東アジアサマースクールの実施

中期目標

大項目

Ⅲ. 地域貢献

中項目

① 教育関連

小項目

5 社会人の学び直しの機会の提供

【期待する成果】

社会人に大学での学び直す機会を提供し、最新の研究成果を社会で役立ててもらう

現 状

公立大学法人化後検討開始

大学に求める取組項目

・フレックス（夜間）コースの検討

フレックス（夜間）コース：主として社会人を対象とした平日夜間の公開講座

中期目標

大項目

Ⅲ. 地域貢献

中項目

② 研究関連

小項目

6 地域創造データベースの構築、活用及び提供

【期待する成果】

研究成果をデータベース化し、地域で役立つ知恵と情報を発信する

現 状

H26年度

H26年12月から稼働

大学に求める取組項目

- ・ 地域創造データベースの充実
- ・ 地域創造データベースの広報に努め、県民の利用を促進

地域創造データベース：研究成果をオンラインデータベース化したもの。研究成果等を広く全国に発信し、教育・研究に資するとともに、社会に貢献する。

中期目標

大項目

Ⅲ. 地域貢献

中項目

② 研究関連

小項目

7 大学・地域の協働による課題解決型プロジェクトの推進

【期待する成果】

市町村等地域との協働を推進して、地域コミュニティの中核的存在として相応しい機能を備えた大学となる

現 状

協働プロジェクトの取組実績

H23年度	H24年度	H25年度
2件	6件	13件

大学に求める取組項目

- ・市町村等との連携協定の推進
- ・協働プロジェクトの実施
- ・プロジェクトの質の検証
- ・コモンズゼミにおけるPBL (Project-based Learning) 教育、フィールドワーク等による学生の実践的な課題解決能力を育成

PBL (Project-based Learning) : 実際の課題の解決を目指して幅広い知識と技能を統合する能力を養うこと。
(文部科学省ホームページより)

中期目標

大項目

Ⅲ. 地域貢献

中項目

② 研究関連

小項目

8 研究成果等の地域への還元

【期待する成果】

地域づくりに貢献できる研究テーマを継続的に追究し、研究成果等を地域に還元する場をつくる

現 状

開催した研究会・シンポジウム
H25年度 なら観光シンポジウム
メディア・コンテンツ・ツーリズム研究会等

大学に求める取組項目

- ・ 地域に貢献できる研究テーマの設定
- ・ 地域貢献に関する研究を行う研究者への支援の充実
- ・ 研究会・シンポジウム等を通じた研究成果の地域への還元
- ・ 地（知）の拠点整備事業広報誌の発行
- ・ 研究季報等を通じた研究の成果の発信

地（知）の拠点整備事業：平成25年度から、大学等が自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学等を支援することで、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的として文部科学省が実施する事業。（文部科学省ホームページより）

中期目標

大項目

Ⅲ. 地域貢献

中項目

③ 地域交流関連

小項目

9 学生の地域貢献

【期待する成果】

学生が大学での研究活動等を通じて地域に貢献する

現 状

- ・ 学生の地域貢献活動参加数
(例：地域行事への参加数、ボランティアへの参加数)

延べ131人

(あすか歴史探検隊、御杖村寺子屋活動、小規模宿泊施設支援事業等)

大学に求める取組項目

- ・ 学生の研究活動が円滑に進むための支援体制の充実
- ・ 学生ボランティア活動に対するサポート

中期目標

大項目

Ⅲ. 地域貢献

中項目

③ 地域交流関連

小項目

10 奈良県のニーズに対応した地域貢献活動

【期待する成果】

大学と地域が連携を強化し、地域のニーズに対応した課題解決に取り組む

現 状

県内の自治体、地域団体、NPO等連携協定数 17件

大学に求める取組項目

- ・ 県内の自治体、地域団体、NPO等と連携した地域の課題解決への取組
- ・ 得られた成果について研究会・シンポジウム等で地域に還元
- ・ 県内企業との協力関係の強化

中期目標

大項目

Ⅲ. 地域貢献

中項目

③ 地域交流関連

小項目

1 1 地域交流拠点の活用（協働サロン等）

【期待する成果】

地域交流拠点を活用して、地域における課題に取り組む

現 状

協働サロン利用状況（H25年12月開設）

H25年度 92人

地域サテライト（桜井市）利用状況（H26年1月開設）

H25年度 48人

大学に求める取組項目

- ・ 協働サロン及び地域サテライトの継続的な開放
- ・ 大学ホームページや各種メディアを活用して協働サロン及び地域サテライトをPR
 - ・ 協働サロン：大学構内に設置。地域住民が集い、住民同士、住民と教員・学生、時に自治体関係者などが交流し、互いの信頼関係を構築しつつ、地域課題の発見と解決策を探る場である。
 - ・ 地域サテライト：大学外の桜井市に設置。週に1回程度、大学地域交流室のコーディネーターが出向いて地域住民等との情報交換に努めるとともに、学生・教員も地域の教育・研究のために適宜利用する。

中期目標

大項目

Ⅲ. 地域貢献

中項目

③ 地域交流関連

小項目

1 2 地域に開かれたキャンパスづくり（施設の開放）

【期待する成果】

地域交流のできる施設の整備及び県民への開放

現 状

	H23年度	H24年度	H25年度
図書館利用者数(学外者)	901人	1,999人	2,097人
県民(市民)講座受講者数	145人	68人	105人
協働サロン利用者数	—	—	92人
地域サテライト利用者数	—	—	48人

大学に求める取組項目

- ・ 地域住民に開かれた施設及び活動事業内容の充実
- ・ 大学ホームページや各種メディアを活用して大学の施設及び活動事業をPR
- ・ 県民（市民）講座の開催回数の増加
- ・ 開放施設を活用した県民向けイベントの開催
- ・ 貸館事業の実施

中期目標

大項目

IV. 国際交流

小項目

1 学生の国際交流

【期待する成果】

学生レベルの国際交流を充実する

現 状

留学生受入数、留学生派遣数、海外フィールドワーク参加学生数

		H23年度	H24年度	H25年度
留学生受入数	交換留学	0人	0人	2人
	短期留学	0人	0人	0人
留学生派遣数	交換留学	0人	0人	1人
	短期留学	21人	9人	6人
海外フィールドワーク参加学生数		0人	0人	0人

大学に求める取組項目

- ・ 海外大学との学生交流協定（授業料免除を含む）の締結の推進
- ・ 海外大学からの留学生に対する住居等環境整備や生活相談等支援制度の充実
- ・ 学生に対する実践的な語学教育の提供
- ・ 学生に対する留学相談、情報提供、留学費用助成等留学支援制度の充実
- ・ 東アジアサマースクールの実施と単位化の検討

中期目標

大項目

IV. 国際交流

小項目

2 教員の国際交流

【期待する成果】

大学教員と海外の研究者との交流による研究水準の向上

現 状

海外研究者との交流によるシンポジウム共同開催実績

H25年度 国立インドネシア教育大学とのシンポジウム
インドネシア イングラライ大学とのシンポジウム

大学に求める取組項目

- ・ 海外大学との学術交流協定の締結の推進
- ・ 国際的な学術研究活動に貢献できる研究者の確保、養成及び学内支援体制の整備

中期目標

大項目

IV. 国際交流

小項目

3 国際交流組織体制の整備

【期待する成果】

海外大学との連携を深め、教育及び学術研究の交流を図る

現 状

連携協定締結校数

H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
1校	2校	0校	3校	1校

上海師範大学（中国）
京畿大学（韓国）
開南大学（台湾）
国立インドネシア教育大学
（インドネシア）
ロイヤルローズ大学（カナダ）
ビクトリア大学（カナダ）
モナッシュ大学
（オーストラリア）

大学に求める取組項目

- ・ 外国語版ホームページの充実など海外に向けた情報発信
- ・ 海外大学との交流活動に貢献できる教職員の確保、養成

中期目標

大項目

V. 法人運営

中項目

① 組織運営と人事管理の改革

小項目

1 ガバナンス体制の充実強化

【期待する成果】

理事長と学長がリーダーシップを発揮し、効率的な法人運営を図る

現 状

外部評価結果

H26年度
法人化前のため実績なし

大学に求める取組項目

- ・ 理事長・学長がリーダーシップを発揮できる法人組織体制の整備
- ・ 理事長を補佐する理事会等の運営方法の確立
- ・ リーダーシップのある学長を選べる選考方法の確立

中期目標

大項目

V. 法人運営

中項目

① 組織運営と人事管理の改革

小項目

2 同窓会・後援会との連携

【期待する成果】

卒業生や保護者の大学の活動への理解を深め、協力を得る

現 状

大学に満足している保護者の割合（保護者アンケート）

満足	18.0%
まあ満足	56.0%
やや不満	14.0%
不満	2.0%
わからない	10.0%

大学に求める取組項目

- ・ 同窓会・後援会との協働事業の実施など連携・交流の強化
- ・ 同窓会・後援会との定期的な意見交換の実施
- ・ 同窓会・後援会と教職員・学生の交流を推進

中期目標

大項目

V. 法人運営

中項目

① 組織運営と人事管理の改革

小項目

3 コンプライアンスの確保

【期待する成果】

公立大学法人としてコンプライアンスの向上を図る

現 状

コンプライアンス担当組織の整備状況

既存担当組織

- ・ 科学研究費補助金不正防止計画推進部署及び内部監査部署
- ・ 人権教育推進委員会
- ・ ハラスメント防止対策委員会

大学に求める取組項目

- ・ 科学研究費補助金の不正防止及び内部監査のためのコンプライアンス担当部署の体制整備
- ・ セクシュアル・ハラスメントやアカデミック・ハラスメントなど人権侵害を含むコンプライアンス担当部署の体制整備

中期目標

大項目

V. 法人運営

中項目

① 組織運営と人事管理の改革

小項目

4 危機管理体制の整備

【期待する成果】

公立大学法人として必要な危機管理体制の整備を図る

現 状

危機管理体制の整備状況

未整備

(リスクに個別に対応しているが、体制としては未整備)

大学に求める取組項目

- ・ 危機管理計画（防災計画を含む）の策定
- ・ 法人の各種リスク（不祥事、クレーム対応、事故対応等）について担当責任者、担当組織を明確化して危機管理体制を整備

中期目標

大項目

V. 法人運営

中項目

② 健全な財務の構築と維持

小項目

5 収入の確保

【期待する成果】

中期目標期間中の安定的な財務状況の維持

現 状

繰越金の額

H26年度
法人化前のため繰越金はない

大学に求める取組項目

- ・ 理事会・経営審議会により継続的な法人の経営状況の把握に努め、迅速かつ的確に方針決定
- ・ 科学研究費補助金、市町村等からの受託事業など独自財源の確保

中期目標

大項目

V. 法人運営

中項目

② 健全な財務の構築と維持

小項目

6 経費の節減

【期待する成果】

中期目標期間中の安定的な財務状況の維持

現 状

繰越金の額

H26年度
法人化前のため繰越金はない

大学に求める取組項目

- ・ 理事会・経営審議会により継続的な法人の経営状況の把握に努め、迅速かつ的確に方針決定
- ・ アウトソーシングの導入など人件費など諸経費の節減、抑制

中期目標

大項目

V. 法人運営

中項目

② 健全な財務の構築と維持

小項目

7 業務の効率化

【期待する成果】

効率的・効果的な大学経営に努める

現 状

業務効率化の取組状況

H26年度
システム導入に向けて準備
(財務会計、人事給与、事務系基盤システム)

大学に求める取組項目

- ・各種システム(学務システム等)の導入、アウトソーシング等による業務の効率化

中期目標

大項目

V. 法人運営

中項目

③ 法人の自己点検・評価及び情報公開の推進

小項目

8 法人の自己点検・評価

【期待する成果】

県民に信頼される法人運営を行う

現 状

自己点検・評価の実施状況

H22年度
大学機関別認証評価を受審

大学に求める取組項目

- ・ 計画・評価委員会を活用して定期的に自己点検・評価を実施
- ・ 平成29年度に大学機関別認証評価を受審

中期目標

大項目

V. 法人運営

中項目

③ 法人の自己点検・評価及び情報公開の推進

小項目

9 法人情報の公開の推進

【期待する成果】

県民に信頼される法人運営を行う

現 状

情報公開の状況

H25年度
大学ホームページの「大学案内」「教育情報の公表」のページにおいて法定公表情報を公表

大学に求める取組項目

- ・ ホームページの内容を定期的に見直し、法定公表情報以外の情報（法人が制定する各種規程等）についても積極的な掲載を推進

中期目標

大項目

V. 法人運営

中項目

③ 法人の自己点検・評価及び情報公開の推進

小項目

10 情報発信体制の強化

【期待する成果】

大学の認知度の向上、ブランドイメージの向上

現 状

メディア掲載件数

H24年度	H25年度
25件	51件

H25年度
うち新聞掲載件数 44件
テレビ放映件数 7件

大学に求める取組項目

- ・ 「（仮称）奈良県立大学キャンパスジャーナル」の発行
- ・ 新たな大学の「ブランドイメージの構築」に向けた「戦略的広報」の実施
- ・ メディアへの積極的な情報提供等による大学の認知度の向上
- ・ 県内高校生に向け県立大学の教育内容のPRを行い、県内受験生を増やす取り組みを進める